

I

■出題のねらい

テストについての友人同士の会話です。日本語を学ぶPaulが日本人のMisaに、日本語のテストを受験する不安、特に漢字が苦手なことについて話しています。Misaがどのように慰めているか、不安を克服するためにどのようなことをPaulに勧めているのかといったポイントを押さえることが重要となります。

■採点講評

まずまずのできてでしたが、やはり英問英答と文章内容全体の理解を問う問題が苦手な人が多いようです。特に[4]の正答率は低く、選択肢的にはどれも当てはまりそうなので、きちんと内容把握ができていないと正答できません。MisaとPaulがPaulの日本語力について述べていますが、情報を整理しながら注意深く読む必要があります。

II

■出題のねらい

宿泊施設で提供される共有キッチンの上のルールが述べられています。利用できる時間帯や、調理器具、食器、冷蔵庫などを利用する際の注意点や、宿泊客ができることとできないことを正確に理解しながら読んでいるかを問います。

■採点講評

本文の情報の文量がやや多い問題でした。最も正答率が低かったのは[7]の問題です。この種の問題を解くポイントは、それぞれの選択肢の中からキーワードを拾い上げ、本文中でそのキーワードが出てくる箇所を注意深く読むことでしょう。また、普段から多くの英文を読む練習をし、語彙力や熟語力も伸ばしておく必要もあります。[9]の正答率も低かったですが、“salt”について書かれている5.の項目4行目に注目し重点的に読めば、場合によっては消去法で解答できたでしょう。

III

■出題のねらい

グラフを参照しつつ英文を読み、ポイントとなる情報を的確に読み取る力を問う問題です。また本文の後半では、データが示す社会的背景を理解する力を問うています。

■採点講評

[11]の“the category”という語句と置きかえられるものを選ぶ問題ですが、その段落のトピックが“dinner restaurants”であることから、“dinner restaurants”と置き換えられると判断できます。また正答率の伸びなかった[13]で、“fail”の後ろには不定詞がくることは多くの人が理解していましたが、能動態か受動態かで迷ったようでした。主語は“we”なので能動態の“attract”が正答となります。

IV

■出題のねらい

子どもの描いた絵に基づいて特注ぬいぐるみを制作するベンチャー企業について紹介した英文を読み、ビジネスの内容や客の反応、さらには児童心理の専門家による評価などの情報を正確に辿りながら、英語の基本的な語彙・語法の理解や文章全体の内容把握を目指す問題です。多くの人物が登場する文章なので、それぞれの人物に関わる情報の区別や、人物相互の関係を的確に整理しながら読み込むことで、各設問が解答しやすくなります。

■採点講評

全体的に正答率はあまり高くなかったです。特に接続詞を埋める[18]の正答率は低く、前後の文章の流れが掴めていないと正答できない問題でした。[21]も正答率が低く、このベンチャー企業の設立経緯、業績、サービス内容等を十分に整理しながら読み、解答する必要がありました。[23]の問題は、選択肢が英文なので難易度は高いですが、下線部分を注意深く読み、誰がどういう場合に何をするかをしっかりと把握しましょう。[25]の問題の“the founder”は誰のことを問う問題ですが、(3)を選んだ人が多かったです。「設立者」ですので直近の個所には出ていません。熟慮して解答しましょう。

V

■出題のねらい

シャイと言われる人たちの本当の姿と、世間での見え方について述べ、誤解が生じないためのアドバイスが書かれています。熟語力や構文力を問うています。

■採点講評

並び替え問題は苦手な人が多かったようです。普段から熟語力を伸ばしておくといでしょう。例えば、今回“appear to …”「～のように見える」や、“be in trouble”「困っている」などが出てきましたが、読解力だけでなく熟語力も必要です。

該当部分の正しい語の並び方は、次のようになります。

- 1) ③appear ⑤to be ④shy ②and
- 2) ①activities ⑤they ③can ②do alone
- 3) ①you ④are ⑤in ②trouble